

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成31年1月

協議会名：	岡崎市交通政策会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄バス㈱ 額田支所市民病院線	額田支所前～市民病院	前回の第三者評価委員会において、「利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される」と意見をいただき、利用促進に取り組んだ。 ・市内イベントにおいて額田地域の魅力紹介やバス路線を周知したほか、新たに公共交通マップを活用したマイ時刻表サポートブースを設け、利用促進に努めた。 ・地域住民へ他路線からの乗継情報の周知を行った。	A	事業は計画通り実施された。	B	【利用者数】 平成30年度（H29.10～H30.9）の目標利用者数7,822人に対し、実績利用者数は6,244人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成30年度（H29.10～H30.9）の目標利用率0.28％に対し、実績利用率は0.15％であり、達成することができなかった。 【要因】 運行範囲が多学区にわたっており、額田地域以外への周知不足のほか、定期利用者の減少が原因と考えられる。	・利用状況等の現状分析を行い、地域住民や運行事業者等と連携し、交通モードの転換を含めた路線の在り方について協議をすすめる。 ・上記と同時に、額田地域生活交通協議会を中心として、額田地域の住民へ周知を図るほか、額田地域以外へも利用状況等を情報提供するとともに、地域住民とともにバス利用状況等のチラシを回覧や、会合等のバスの利用等、利用促進を図っていく。
豊栄交通㈱ 下山地区線A	桃ヶ久保～岡崎げんき館前	前回の第三者評価委員会において、「利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される」と意見をいただき、地域協議会を主体として利用促進等に取り組んだ。	A	事業は計画通り実施された。	B	【利用者数】 平成30年度（H29.10～H30.9）の目標利用者数4,979人に対し、実績利用者数は4,260人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成30年度（H29.10～H30.9）の目標利用率3.34％に対し、実績利用率は2.01％であり、達成することができなかった。 【要因】 高校生の通学利用者の減少のほか、定期的に利用していた高齢者が利用できなくなったことが要因と考えられる。	額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・老人クラブの活動で市街地へ行く際にバスを活用する。 ・バスと自転車を乗り継いで高校生が通学しやすくなるよう、岡崎げんき館前バス停近くに駐輪場を整備した。 ・夏休み期間中に、小学生にスタンプカードを配付し、プール開放日や放課後事業教室にバスを利用した場合、運賃の一部をPTAが補填する取り組みを行う。 ・バス利用状況等のチラシを回覧。 ・地域住民とともに、地域ニーズを対応した路線、運行形態等の見直しを図っていく。
㈱西三交通 形埜地区線 （南大須・鍛埜ルート）	北部診療所～須渕橋～北部診療所	前回の第三者評価委員会において、「利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される」と意見をいただき、地域協議会を主体として利用促進等に取り組んだ。 ・高齢者定期券購入費の1割を地域の社会教育委員会が助成する取組を継続して行い、利用促進を図った。	A	事業は計画通り実施された。	A	【利用者数】 平成30年度（H29.10～H30.9）の目標利用者数811人に対し、実績利用者数は886人であり、達成することができた。 【利用率】 平成30年度（H29.10～H30.9）の目標利用率0.32％に対し、実績利用率は0.45％であり、達成することができた。 【要因】 運行見直しにより、診療所からの帰りのダイヤ変更のほか、本数を増加するなど、利用者ニーズに合わせた運行ダイヤ等に設定をしたことが要因と考えられる。	額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・高齢者定期券購入費の1割を地域の社会教育委員会が助成する取組を継続して行う。 ・運行内容のチラシ及び利用状況やお得なバスの使い方等のチラシを地域住民に配付し、周知している。 ・地域住民とともに、地域ニーズを対応した路線、運行形態等の見直しを図っていく。
㈱西三交通 形埜地区線 （切山・小久田・毛呂・井沢ルート）	北部診療所～切山横手辻～北部診療所	・アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年10月に運行の見直しを行った。					
岡東運輸㈱ 宮崎地区線（大雨河ルート）	宮崎診療所～高雲寺～宮崎診療所	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A	事業は計画通り実施された。	A	【利用者数】 平成30年度（H29.10～H30.9）の利用者数は、前年比111.9％と増加したが、目標利用者数497人に対し、実績利用者数は459人であり、達成することができなかった。 【利用率】 平成30年度（H29.10～H30.9）の目標利用率0.30％に対し、実績利用率は0.63％であり、達成することができた。 【要因】 運行見直しにより、診療所からの帰りのダイヤ変更のほか、本数を増加するなど、利用者ニーズに合わせた運行ダイヤ等に設定をしたことが要因と考えられる。 ※2つの指標のうち、利用者数は目標未達成だが、額田地域は人口減少の地域であること、地域協議会による利用促進策が図られていることから、評価はAとした。	額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・額田コミュニティバスの利用状況等をまとめたチラシの配布 【要因】 地区のイベントなど住民が集まる機会を捉え、バス利用の啓発や利用案内を行う。 ・地域住民とともに、地域ニーズを対応した路線、運行形態等の見直しを図っていく。
岡東運輸㈱ 宮崎地区線（千万町ルート）	宮崎診療所～木下公民館～宮崎学区市民ホーム前						
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線 （鳥川ルート）	市道～ハズノモト～星野クリニク	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、アンケートを行い地域住民の意見を把握し、地域協議会で協議の上、平成29年4月に運行の見直しを行い、診療所への便の利便性を高めた。	A	事業は計画通り実施された。	A	【利用者数】 平成30年度（H29.10～H30.9）の目標利用者数434人に対し、実績利用者数は488人であり、達成することができた。 【利用率】 平成30年度（H29.10～H30.9）の目標利用率0.09％に対し、実績利用率は0.16％であり、達成することができた。 運行見直しにより、診療所からの帰りのダイヤ変更のほか、本数を増加するなど、利用者ニーズに合わせた運行ダイヤ等に設定をしたことが要因と考えられる。	額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・額田コミュニティバスの利用状況等をまとめたチラシの配布 ・地区のイベントなど住民が集まる機会を捉え、バス利用の啓発や利用案内を行う。 ・地域住民とともに、地域ニーズを対応した路線、運行形態等の見直しを図っていく。
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線 （夏山ルート）	額田支所前～平針～星野クリニク						